

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501636
法人名	新居浜医療福祉生活協同組合
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	新居浜市南小松原町8-68
自己評価作成日	平成28年2月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>一人ひとりが、自分の思う生活を過ごして頂けるように、環境をの整備に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>系列事業所合同で力を入れている取り組みを報告する「自慢話の会」があり、今年度、事業所では「家族会」の取り組みを発表した。今回の自己評価は、職員で項目を手分けして取り組み、管理者がまとめた。管理者は、話しやすい雰囲気作り心がけており、取り組みをすすめる際には職員の意見を聞くようにしている。</p> <p>利用者が電話を掛けたい時には、職員が取り次いだり、帰りたい気持ちがある方には、ご自宅や元職場近くをドライブして、現在の様子を見ることができるよう支援している。いとこが訪ねて来られる方には、居室でゆっくり過ごせるようお茶等を用意している。ご家族に手紙を書きたいと希望する方には、手紙の内容を職員と一緒に考える等して手伝いをしている。職員が散歩に誘うと断る利用者には、他利用者が誘ってくれて一緒に散歩するような場面もあるようだ。孫のためにひざ掛けを編む利用者もいた。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム あおぞら

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

山内 敏幸

評価完了日

平成28年 2月 15日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) スタッフルームに掲示し、理念の共有と実践を心掛けている。 パンフレットにも掲載し、公開している。	
			(外部評価) あおぞらの介護理念5項目を居間等に掲示している。又、パンフレットに明示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議に来て頂いたり、利用者との散歩時に挨拶やお話をして交流している。	
			(外部評価) 自治会に加入しており、回覧板で地域活動の情報を得ている。昨年、公民館で落語の催しがあった際には、利用者の希望を聞いて参加できるよう支援した。歌がお好きな利用者が多いことから、オカリナや歌のボランティアを受け入れている。管理者は今後、近所の方達との関係作りに取り組み、気軽に訪れてもらえるような事業所を作っていきたいと話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を利用し、民生委員や地域の方にも勉強会に参加して頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に、利用者や家族に参加して頂き、地域の方達と意見交換し、交流の場となっている。その意見を日常のサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、居間で行っており、家族会での餅つきや法人内講師による笑いヨガの講習、ボランティアによるお手玉遊びと併せて行っている。会議によっては、民生委員、ご家族、法人理事長、市の担当者の参加がある。会議案内は、ご家族の来訪時や近所の方にも手渡ししている。</p>	<p>会議の意義や目的を踏まえて、概ね2ヶ月に1回の開催に取り組んでほしい。たとえば、他グループホームの会議に参加するような機会を作ってはどうだろうか。事業所は、今後、地域とのかかわりをさらに増やしたいと考えており、会議の年間計画を作って参加協力を働きかける等、会議を活かした地域とのつながり作りに取り組んでほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に来て頂いて、事業所の運営等や困難時は相談し、指導を受け、協力関係を築くよう努めている。</p> <p>(外部評価) 介護相談員の訪問が2ヶ月に1回あり、利用者のお話をゆっくり聞いてくれている。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束に関する学習会にも参加して、理解を深め、全職員とも共有している。身体拘束のない介護を目指し、日々取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 毎月のミーティング時に、勉強会の時間を設けている。外部研修時の資料を活用して、年1回は身体拘束について勉強をしている。廊下に「身体拘束0」のポスターを掲示し、職員の意識向上に努めている。事業所は、建物の2階部分に位置しており、廊下から階段につながる部分には、鍵付きのスライドフェンスを設置している。</p>	<p></p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止のケアを徹底している。 職員でカンファレンスや申し送りで話し合っている。 事業所内での虐待を見逃さないよう、職員間の連携に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修に参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 具体的に説明の行い、納得頂いた上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議に利用者、家族、地域の方々に参加して頂き、意見交換を行い、運営に反映させている。 また相互研修を行い、外部の事業所の意見も反映させている。	
			(外部評価) 年3回家族会を開催しており、12月には餅つきをしながら利用者のご家族、又、ご家族同士が交流を図れるよう取り組んだ。日頃からご家族の来訪は多く、職員はその都度、口頭で利用者の様子を報告している。ご家族からは、健康状態についての質問が多いようだ。ご家族は車で来訪されるため、事業所の敷地以外にも近所に駐車場があることを説明している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営会議(意見交換会)を月1回開催している。介護部長や理事も参加し、職員の意見や問題を協議している。 (外部評価) 系列事業所合同で力を入れている取り組みを報告する「自慢話の会」があり、今年度、事業所では「家族会」の取り組みを発表した。今回の自己評価は、職員で項目を手分けして取り組み、管理者がまとめた。管理者は、話しやすい雰囲気作り心がけており、取り組みをすすめる際には職員の意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1回、理事・管理者・職員との間で人事評価を行っている。自己評価1次、2次評価と細かく実施しており、それを基に給料の改正や職場の改善を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は、職員の希望を聞き、随時参加できるようにしている。交通費や研修費の支給制度がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 毎年グループホーム相互研修に参加している。愛媛県地域密着型サービス協会が開催する交流へ参加している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族やケアマネージャーからの情報を基にして、本人とも話し合い、希望されている事、不安な事等を聞き、安心出来る様な関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事業所見学に訪れた時に家族を交えて、本人の意向や要望を聞き、ホームで安心して生活出来るように、情報を取り入れている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の今までの生活を尊重し、ホームでも家で生活していた時と同じ様に生活出来るよう支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が安心して生活して頂けるように、話しやすい関係を作れるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者・家族が安心して生活出来るよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者が昔行った事のある場所にドライブに行ったり、昔していた趣味が続けられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者が電話を掛けたい時には、職員が取り次いだり、帰りたい気持ちがある方には、ご自宅や元職場近くをドライブして、現在の様子を見ることが出来るよう支援している。いところが訪ねて来られる方には、居室でゆっくり過ごせるようお茶等を用意している。ご家族に手紙を書きたいと希望する方には、手紙の内容を職員と一緒に考える等して手伝いをしていく。職員が散歩に誘うと断る利用者には、他利用者が誘ってくれて一緒に散歩するような場面もあるようだ。孫のためにひざ掛けを編む利用者もいた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の心身状況を把握し、利用者同士の関わりが持てる関係作りに結び付けている。 全員が家族の一員として、支え合えるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も関係を持って、家族や親族の相談や情報提供に努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々、利用者との関係を深め、一人ひとりの希望や思いを把握するよう努めている。 家族にもよく話を聞き、困難な場合も利用者本意に考えるように努めている。	
			(外部評価) 事業所は、「利用者に嫌な思いをさせない」ケアを目指しており、職員は、利用者に無理強いしないことに心がけている。ケアマネジャーの交代を機に、現在アセスメントの充実に取り組んでおり、3ヶ月ごとの介護計画見直しごとに「基本情報シート」を更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族にも以前の暮らしぶりや生活の流れを聞き、できるだけその方の背景を理解するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で、日中、夜間の様子を申し送り、職員全員が現状を把握出来るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日頃から、利用者の希望や心の思いを把握し、家族とも日々交流を持ち、意向を伺っている。 職員間でも、その方の目標を話し合い、プランを作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の支援内容を一覧表にして、利用者個々の担当職員が2週間に1回モニタリングを行い、評価につなげている。利用者やご家族の満足を評価する項目も設けている。介護計画は、「ご本人が何をすることが満足につながるか」という利用者の視点に立ち作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別の記録や日誌を詳細に記入し、職員間で申し送り、全員で共有し、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的に訪問理容や訪問歯科、主治医による往診が行われている。 また、必要に応じて受診介助も行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 定期的に歌やお手玉などボランティアの方に訪問してもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所後もかかりつけ医の受診を大切にしている。受診には出来る限り、家族に付き添って頂き、治療方針や利用者の状態を把握してもらえよう支援している。	
			(外部評価) 入居契約時には、協力医の体制について説明し、利用者やご家族が選べるよう支援している。2週間に1度、協力医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者の状態は日々の申し送りで健康に関することや異変について報告を行っている。夜間等についても、随時対応している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に付き添い、情報提供を行っている。必要時は、家族・医療関係者も含めカンファレンスを実施し、早期退院が出来るよう支援している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に利用者、家族と終末期のあり方について話し合っている。看取りについて、事業所で出来る事、家族の支援について説明を行っている。	
			(外部評価) 入居契約時には、看取りの指針に沿い、「利用者ご家族の希望に応じて事業所で最期まで看ることが出来る」ことを説明している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時について、家族の要望や搬送先の希望を聞いている。 職員は普段より、応急手当の方法を身につけている。 また、救急時の家族への連絡や夜間時の職員応援体制の確保に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実施したり、災害時の備蓄や連絡網の作成を行っている。 非常時の持ち出し品や避難優先順位を検討している。 (外部評価) 昨年3月には、1階に併設するヘルパーステーションとともに、消防署の協力を得て、日中の火災を想定し避難訓練を実施した。又、11月には、事業所独自で廊下突き当たりの避難口外まで利用者を避難させる訓練を実施した。廊下には新居浜市のハザードマップを掲示していた。	事業所の立地条件等を踏まえて、夜間想定避難訓練の実施や地域との協力体制作りに向けて具体的に取り組みをすすめてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の思いや暮らし方を尊重し、実現出来るよう支援している。 (外部評価) 口腔ケアを行う際のリーダーになってくれる利用者や、廊下のモップがけをしてくれる利用者等、それぞれに得意なことを行ったり役割を持って生活できるよう支援している。管理者はさらに、「利用者の意欲を高めるような接し方」「利用者のできることを増やす、引き出す支援」のスキルアップに取り組みたいと話していた。利用者が自ら「～したい」という気持ちになるような支援に工夫してほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が外出や献立、おやつ等選択出来るよう支援している。 飲み物も温度等、個人の希望に沿うようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 散歩の好きな利用者には近所を一緒に散歩したり、利用者の要望にそった支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者本人に洋服等を選んでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お盆の配膳やテーブル拭き等、利用者と職員が一緒に行うよう、声掛けしている。	
			(外部評価) 業者の献立で食材が届き、事業所で調理を行っているが、朝食と水・日曜日は、食材の買い出しに出かけ事業所で手作りしている。台所は、居間と別の場所にあり、利用者は調理にかかわる機会はありませんが、今回、自己評価に取り組み、職員は「利用者も台所に入れるよう取り組みたい」と考えている。昼食中、職員一人が利用者の介助を行い、他職員は別の場所で持参したお弁当を食べていた。誕生日には、ご本人の食べたいものを用意してお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 出来るだけ水分を摂取出来るよう、朝夕2回に分け、水分を摂って頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 洗面台まで誘導し、自分で出来る方は行っている。磨き残し等、職員が確認し、介助にて清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) ほとんどの利用者が自分からトイレに行っている。介助や付き添いが必要な方は排尿の間隔を見ながら、トイレ誘導やパッドを交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 居室を出た所に、2人に1つ、入口がアコーディオンドアのトイレが設置されている。夜間トイレに行く際のために、入口辺りにライトを付けている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 普段から食維持に野菜を多く取り入れ、便秘の予防に努めている。便秘時は、内服薬での調整を行っている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 週に2~3回入浴して頂いている。拒否がある場合は無理じいはせず、日程をずらす等工夫している。</p> <p>(外部評価) 午前中が入浴時間になっている。深めの浴槽であるが、職員の見守りと浴槽台を使い、すべての利用者がお湯に浸かって温まれるように支援している。入浴を拒み、入浴の間隔が開く利用者があるが、職員は、居室で誘うと断ることが多いことから、利用者の性格等も踏まえて、みなが集う居間で誘ってみることを介護計画に採り入れていた。</p>	<p>さらに、利用者個々が気持ちの良い入浴ができるよう、利用者主体の入浴について支援に工夫を重ねてほしい。入浴を拒む利用者については、ご自分から「入浴してみよう」と思えるような支援に、今後さらなる工夫を重ねてほしい。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運動不足や昼夜逆転にならないよう、注意しながら自由に休息を取ってもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員がその都度手渡し、服用を確認している。 職員は利用者の薬について、副作用や処方の変更を周知し、適切に服薬出来るよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の趣味(読書・編み物等)を楽しんで頂いたり、洗濯たみや調理の下ごしらえや干し柿、切干大根も作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩やドライブ、スーパーに買物に出掛けている。 また、家族と一緒に外出出来るように支援している。	外出を喜ぶ利用者が多いことから、事業所では、地域行事への積極的な参加や日常的にも、ちょっと出かけるような取り組みをすすめたいと考えている。又、食べることが好きな利用者が多いことから、外食の機会も月1回程度作りたいたいと話していた。
			(外部評価) 天気の良い日には、午後からの散歩が日課になっている。季節ごとには、計画を立てて外出している。地域祭を喜ぶ利用者が多いことから、管理者は今後、あかがねミュージアムの太鼓台の展示を見に行きたいと話していた。利用者の中には、外出に向けての気持ちがあっても、外出することを拒むような方も見受けられる。現況についてひもときながら、ご家族とも話し合い、支援に工夫を重ねてほしい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己責任で小額の小遣いを持っている方もいる。 持っていない方は事業所が立替を行い、喫茶等を利用している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話の利用は可。 電話を自由に利用出来ている。プライバシーを保つために、自室で子機を使用して頂いている。 手紙は本人に直接渡している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 日頃から、気をつけて事業所内の点検を行っている。利用者が不快や混乱を起こさないよう、環境を大きく変えないように注意している。ベランダには野菜や花を植え、季節感を感じられるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 玄関等に、河柳(猫柳)や椿が生けてあった。南向きの廊下は自然光が入り明るく、窓は、ところどころステンドグラスになっている。廊下の突き当りには、七段のひな人形を飾っていた。又、昼食後には歩行練習したり椅子に座ってひなたぼっこしている利用者の様子が見られた。居間のテーブル席では、女性利用者同士でテレビを見ながらおしゃべりしていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共有室では、一人ひとり落ち着ける席配置になるように配慮している。廊下のソファでも居心地よく過ごせるよう工夫している。利用者同士の関わりにも気をつけている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家族にも話を聞き、馴染みのある物を居室に用意し、安心して生活出来る環境づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 湿度管理のために、小さなバケツに水を溜めてあった。床掃除は利用者自身で行う場合もあるが、職員が行っている。テレビを見たり、読書に親しむ利用者がある。居室入口の戸は、ガラスがない部分に紙を貼っているところもあるが、近々ガラスを入れる予定である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの心身状況を把握し、その人に合った声掛けや介助を行い、出来る事やわかる事を活かして生活を送れるよう支援している。</p>	